

残暑お見舞い申しあげます

西伊豆で開かれた「伊豆半島食の祭典」
渡辺周代議員と(3/22)



前東伊豆町議会議員

須佐まもる **「誠実・実行・志し！」**

バックナンバーはホームページで!

「須佐まもる後援会」
で検索しよう!

イソブキ便り 平成27年 上期号 9月1日発行

須佐まもる後援会 〒413-0302 静岡県賀茂郡東伊豆町奈良本1496-18
Tel&Fax 0557-23-3501 / 080-3458-0925 E-mail:mamo@knossos.jp



県議選、9,388票獲得するも惜敗!

今回の静岡県議会選挙において、たいへん多くの皆様にご支援、ご協力いただきましたが、残念ながら落選という結果になりました。これはすべて私の不徳の致すところです。実力不足でした。それでも9,388票という多くの票をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

選挙中、多くの皆様から頂戴したご意見・ご要望は、いずれ形にできるよう、今後とも努力していきたいと思っております。未熟な私のために多くの皆さんを巻き込んでしまいました。この選挙を支えていただいた皆様に改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。

一市五町を隅々まで歩く



選挙期間中、渡辺周衆議院議員、藤本祐司参議院議員をはじめ多くの皆さんが応援に駆けつけてくださいました。

地元を歩いていて気付いたこととして、空き家がどんどん増えている。若い人の雇用をつくり、災害に対する安心安全なまちづくりを実践するため、古くなった公民館を建て替え、防災センターにする必要がある。集落の奥へ入っていくコミュニケーションバスを広域で考えないといけない。この地域の交通基盤の整備が欠かせない。縦貫道も大切だが、アクセス道や国道も整備する必要がある。地域ブランドを増やし、観光とコラボで地域活性化を図る。今年是世界ジオパーク認定が決まる年、世界中の人たちに伊豆をPRしよう。」と訴えました。

世界ジオパークの視察を見学

9月に決定する世界ジオパークの現地審査の様子を見に行きました。初日はあいにくの天気で、海外から来た専門家の方も表情が暗かったように感じましたが、この日はよく晴れ、西伊豆から南伊豆へ海からジオを觀察し、河津七滝の視察では、滝の形成過程や柱状節理などを興味深そうに見学していました。私も伊豆住民としてホツと胸をなでおろしました。

伊豆市スタートして西伊豆・松崎。二日目のこの日は南伊豆・下田・河津。最終日は伊東市の大室山、城ヶ崎を回る予定です。(6/10)



各市町によって取り組み方が異なりますが、東伊豆町は見所が少ないということでジオパークに力を入れません。今回の視察でも行程に入っていませんでした。

『平太さんと語るつ』@南伊豆

川勝県知事が下田市と南伊豆町にお越しになり、「移動知事室」が行われました。初日は娘の通う稲取高校を視察し、昨年から取り組んでいるスーパー食育スクールや、進路指導の関係、部活動の様子をご覧になりました。



知事は毎年伊豆半島にお越しになっています。とくに可能性を秘めた賀茂地域に着目しています。県庁から一番遠い賀茂郡に力を入れると力強く約束してくれま

翌日は南伊豆町役場のホールで「平太さんと語るつ」が開催され、私も傍聴に行きました。世界ジオ調査団に合わせたかのように知事が来られ、熱く伊豆半島の可能性、将来について語りました。とくに医療の問題では、奨学金制度を利用した医師の確保、ドクターヘリにも言及されていました。

また、会場からは、東京五輪開催に合わせ、この地域のマリンスポーツの会場や合宿地にアピールできないかと提案がありました。私も応援したいです。(6/12)

白浜ビーチクリーンに参加しました

6月の真夏を思わせる日曜日、今年で8回目になる「白浜ビーチクリーン」に参加しました。

この取り組みは、旅行情報誌「やらん」の元営業の青木さんという方が立ち上げ、観光に携わる方や地元出身で首都圏に住む方など大勢で行われています。真夏を思わせる夏空の下、海水浴客も大勢きていました。(6/28)



ビーチは大勢の人でにぎわい、この日行われていたサーフィンの大会でもクリーンイベントが行われていました。

週末アドベンチャートリップ

週末アドベンチャートリップ実行委員会主催の「百人会議」に出席しました。週末アドベンチャートリップとは、伊豆半島の楽しみ方をコンシェルジュする仕組みとサービスです。

今日集まった人たちの多くは、伊豆、特に賀茂地域の大自然に魅力や可能性を感じ事業を興した人たちです。この取り組みがすごいのは、官と民がコラボし、その間を取り持つコーディネーターが重要な役割を担っていることです。地域の魅力や可能性だけでこれだけの人が動いたのには驚きました。みんな一点を見つめている。そう感じました。(6/30)



48種のインフォメーションカードのお披露目は圧巻！とくに体験もののアクティビティが魅力です。

この5月より、民主党静岡第6区の顧問となりました。今後ともよろしくお願い致します。

土屋副知事と意見交換会

民主党県第6区総支部の総支部長 渡辺周代議士とふじのくに県議団のお計らいで、静岡県の副知事に就任された土屋優行氏と意見交換を行いました。これは先月、ある会合の席で「せっかく地元出身の副知事が誕生したので、意見交換の場をつくれるといい」と私が提案したのがさっそく実現した形になりました。

各市町の代表が出席するなか、私は第6区の顧問という立場で東伊豆町や賀茂郡のことについて要望しました。土屋副知事は下田市のご出身とあって、地元のごことはよくご存知と思いましたが、一つ一つについてねいにメモをとって伊豆の今後について考えを述べてもらいました。

私が選挙戦で話してきた「高校を卒業したらその分だけ人口が減少する」現状を、県でも実証したようで、若者の雇用の場、集える場をどのように築いていくかが課題だと話されていました。賀茂振興局長兼政策調整監というお立場

から一歩高みに立って、一市五町の行政改革にも意欲的だと感じました。産業振興、まちづくりに力を入れてくれることと存じます。

私たちも県をあまり頼りすぎることなく、まちづくりを進めていかなければなりません。県庁が近くなった感じでもとも頼もしく感じます。意見交換を重ねつつ、時に議論も交えながら地域の振興をすすめていきたいと感じました。地域の皆さんと「プチ・平太さんと語るつ」的なざつくばらんな交流会があるとよいなとも感じました。私からの要望は以下の通り。

(1) 医療・介護事業

夜間ドクターヘリの運航整備とともに、賀茂地区に災害拠点病院を新設する必要がある。また、これから下田賀茂地域の雇用の中心になる、医療・介護施設で働く皆さんへの手当やインセンティブを考えていただきたい。

(2) インフラの整備

この夏の観光動向を見ると、伊豆縦貫道を利用して南部へ訪れる観光客が増加しているようだが、依然国道135号を利用する誘客も多い。この時期はかなり交通が

マヒすることから、海岸線の国道を補完する町県道の整備をしつかりやっていたきたい。

水道事業は各自治体の個別事業になつているが、布設から半世紀以上たち安全に水を供給することが難しくなつている地域もある。施設の耐震化を図らねばならないことも考えれば、県には特段の配慮を願いたい。

賀茂地区の光ファイバー網に関しては、今年度、河津町・松崎町において県の補助による整備が行われていると拝察するが、南伊豆町や西伊豆町など依然進んでない地域も多い。来年度以降、ADSL回線のサービスが終了していくことから、光回線の整備促進をお願いしたい。

(3) 観光誘客

インバウンド客が年々増えている一方で、伊豆南部への誘客が進んでいないことから、wifiスポットや案内看板の整備を徹底してほしい。また、伊豆でしか手に入らない記念品の進呈など、おトク感あふれる情報の提供を検討願いたい。また、

富士山静岡空港に訪れた観光客の県道223号への誘導や、試験的に清水港と下田港を結んだ航路を考えていただきたい。世界ジオパークの認定に向けて、東部コンベンションセンターの積極的な活用と伊豆南部への観光誘客を図ってほしい。

観光地の景観を守る意味でも、廃墟や空き家の監視強化、撤去を行ってほしい。

(4) 移住定住化の推進

特に伊豆南部において人口減少が著しいことから、首都圏などからの移住定住をこれまで以上に推進していただきたい。以上です。副知事からは「党派を超えて縦貫道建設を進めましょう」と力強い発言もありました。(8/24)



各市町の代表の前に、渡辺周総支部長から地域の要望が述べられる。下田市出身の土屋副知事には、地元の大きな期待が寄せられている。

誠実・実行・こころざし！



コラム「戦争反対から政治は始まる」

学生団体の「戦争に行きたくない」という主張のデモに対し、「利己的考えに基づく」、「法案が成立しても戦争に行くことはなく、学生たちが誤解している」と自民党の若手議員が述べたところ、ネット上でかなり炎上しているようだ。さらに、利己的個人主義がここまでまん延したのは戦後教育のせいだろうと思うが、非常に残念だ」と書き込みをしていた。

この武藤議員というのは3年前に自身のブログの中で、憲法の三大原則を日本人の精神を破壊するものだと言い切っている。そして、民主主義をも疑問視している。公募で自民党から立候補したということだが、この人の政治哲学はどうなっているのだろうか。

今回のコメントでも非常に残念なのは、戦後日本の平和教育を否定していることだ。先日の磯崎氏といい今回の武藤氏といい、自民党の次世代を担う国会議員は恐ろしいほど右傾化している。何が恐いって自分たちの発言に責任をとり切れてないし、「戦争」に直面することが初めてなのに「戦争」をあまりにも知らないし、その点でも無責任だ。

日本は日清日露戦争から第2次大戦まで、10年に一度のペースで大きな戦争を重ねてきた。その中で政治と軍事が一体となり、歯止めが利かなくなっていく。今、あの戦争を否定しきれてない安倍総理の一族一派が政権を担っているということ。憲法を改正すればすぐに戦争を仕掛ける準備ができると考えていること。これは絶対に止めなければならない。

先の戦争が何であったかを若手の国会議員はしっかり検証すること。けして盲目であってはならない。そして、あの戦争は敗戦であって、あの時点で日本は永久に戦争を放棄しているということ。日本は1951年に独立復帰する代わりに国内に基地を提供させ、米国に守ってもらうこととした。最小限の軍事力は自衛のみに利用される。

学生たちが安保法制に反対するのは、「戦争に行きたくない」という主張が根本にあると指摘しているが、そのことじたい否定することはできない。学生であるか否かを問わずだが、若者の政治へのとっかかりが「戦争反対」で何がおかしいのか。まずはそこから、そこから政治への理解が深まる。いま彼らにとって、安保法制こそが大きな関心事なのだ。

そのことを否定しては投票率の向上や政治的無関心への課題を政治家が亡きものとする事になり、ましてや18歳参政権をも否定しかねない。繰り返したが、戦争反対から政治は始まる。そういっても過言ではないのだ。それを「学生は何か扇動されてる」とって、扇動されてるのはあんなだから。間違いなく！

武藤貴也議員は、未公開株問題で自民党を離党しました。